

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773301797		
法人名	医療法人 山紀会		
事業所名	グループホーム 華 2F		
所在地	大阪府大阪市西成区千本南1丁目23番28号		
自己評価作成日	平成25年4月25日	評価結果市町村受理日	平成25年7月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年5月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来る限り、御利用者様の生活ベースに合わせて、日々を過ごしていただける様にホームの雰囲気作りをしている。行事や誕生日等を大切に、色々な企画を立て、外食や外出の機会を作っている。町会の行事等にも参加させて頂いている。法人内の、他事業所や、病院との連携も重視しており、協力関係を築いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

組織母体は「医療法人山紀会」で、地域密着型の医療と介護が一体となったきめ細かなサービスを目指して、地域の医療・福祉への貢献に取り組んでいる。建物は地下鉄四つ橋線岸里駅から徒歩約10分歩、静かな佇まいの一角に、5階建て「やまき介護ステーション」の2・3階部分に「グループホーム華」がある。ほとんどが常勤職で内外の研修会に参加し、職員のスキルアップに力を入れている。職員は利用者の日常生活や行事写真を一冊のアルバムを作り、敬老会の日に一人ひとりに差し上げたり、利用者の生活・身体状況を詳しく記された「往診・受診・訪問看護のご報告」を毎月家族に送られている。また利用者の楽しみである食事作りにも力を入れ、利用者と共に献立を考えて、買い物、調理などの一連の作業を共にして料理を作るなど、常に利用者目線を大事にした支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のGH会議にて、理念の音読・確認を行い、フロアに掲示することで、意識するようになっている。	「利用者の笑顔、家族の笑顔、スタッフの笑顔」、「利用者の尊厳を守り、その自立を支援し、明るい家庭的な、地域に開かれたグループホームをつくります・・・等々」の理念を全体会議で唱和し、ホームの随所に掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	建物と、希望される御利用者様には、町会の会員に入って頂き、公園掃除や地域の行事等にも参加している。	町会に入会し、地域の花見、夏祭り、地藏盆等の参加や毎月1回、公園清掃活動に職員と共に参加している。デイサービスと町会と共同で公園の花壇管理を6月から依頼されて、ホームの利用者も水遣りをする事もある。	
		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、資料を配布させて頂いたり、行事などに参加させて頂いている時に、相談を受けたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて、現状・今後の予定等を報告し、それを踏まえて、アドバイスや情報を頂いたり、御利用者様にも参加して頂き、意見を出して頂いている。	地域包括支援センター、町会長、民生委員、地域ネットワーク委員、利用者、法人の代表職員の参加で隔月に開催している。事業所から暮らしの状況報告や参加者から意見を頂く等、双方向的な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当のケースワーカーを初め、その他の方からも入居相談等を受けたりしている。	日頃から、介護保険課や生活支援課のケースワーカーの担当者と申請の手続きや現状報告などの連絡や報告を話す機会を持ち、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言をフロアに掲示し、研修等を行っている。玄関の施錠も行ってない。	身体拘束に関する勉強会を実施し、職員は利用者が身体拘束を受ける弊害を理解している。玄関は施錠せず、拘束をしない自由な暮らしを支えている。ホームの随所に「身体拘束排除宣言」を掲示し、理解を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等にて、学習の機会を持ち、ポスターを貼ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等にて学習の機会を持ち、あんしんさぽーと等の制度を御家族様や御利用者様に説明したり、利用したりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は、時間をかけてわかりやすい説明を心掛け、改定の際には、口頭と文書にて説明し、署名を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で、御利用者様の意見を頂いたり、苦情シート等でご意見を頂き、反映させている。	家族の訪問時に意見や要望を聞く機会を持つように心がけている。利用者も運営推進会議に出席し、備品(アイロン)購入の要望を表し、その後の会議や家族との話し合いで実現された事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議にて、管理者及び、他部署の責任者等と話せる機会を作り、反映させている。	全体会議とフロア会議が月1回ずつあり 職員の気付きや、多様な意見、提案を聞き、ケアの為の備品購入の要望等には出来るだけ応えるようにしている。個人面談は定期的でなく、必要があれば随時行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて、就業規則の改定を行ったり、会議等にて話し合ったりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内にて、外部研修の案内をしたり、会議等の機会を利用して、研修を行ったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GHネットワークの研修に参加したり、連絡会にて意見交換したりと交流の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接や見学時に、御本人様の意向や、想いを確認させて頂き、出来る限り、意向に沿える様に対応させて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接や見学時に、御家族様の意向や、想いを確認させて頂き、出来る限り、意向に沿える様に対応させて頂き、一緒に御利用者様を支えていける様な関係作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様の状況に合わせた居室の環境づくりや、面談時に、当ホームの他にも、御本人様にとって、より良いサービスが出来るのではと考えられる場合は、紹介等を含めて対応させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員もグループホームで暮らしている一人であり、理念にも家族的な介護を掲げている為、一緒に暮らすという想いを常に意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様と一緒に、御本人様を支えていくという思いのもと、情報の共有や、現状報告・今後の対応等を含めて、一緒に考えたり、意見を反映させている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の方に面会に来て頂いたり、馴染みの店での買物や、外出等を行っている。	馴染みの知人、近隣の方が訪問に来られたり、以前、住んでいた所のスーパーや薬局へ買い物に出かけている。家族の協力で墓参りや法事で実家へ帰った時には、一緒に馴染みの喫茶店や好みの店へ行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様同士で、家事や談笑が出来る様に、席を考慮したり、職員が仲介したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも、電話にて、状況の確認をしたり、問い合わせがあれば、ホームで過ごされて居た時の様子等を報告させて頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、御本人様の意向や、現在の想いを聞かせて頂いたり、カンファレンス等反映出来る様に対応させて頂いている。	入居前のアセスメントや日常会話での気付きや家族から情報収集を行なって、全体会議で全員の検討をしている。他に毎月1, 2名を深く掘り下げて話し合い、本人の思いや意向に沿った最良の暮らしとなるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談等で、生活歴を聞かせて頂いたり、御家族様から情報を頂いたり、日々の暮らしの中でも聞かせて頂いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察記録や、パターンシートにて、状態・状況の把握に努め、職員間でも共有出来る様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様の現在の状況・想い、御家族様の希望、主治医・看護師の意見等を踏まえ、職員で話し合い、計画作成を行っている。	アセスメントシートやケアプラン実施・評価記録、個人介護記録、介護支援経過等の資料や本人・家族の意向、そして主治医、訪問看護師の意見を踏まえ、必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の観察記録や、パターンシートにて、状態・状況の把握に努め、職員間でも共有出来る様にし、支援経過にも記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者様の状態に合わせたサービスが提供出来る様に他事業所にも協力を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町会に参加したり、商店街に買物に行ったり、制度を利用したりして、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を希望される場合は、往診・受診を含めて対応させて頂いている。その他、必要に応じて、他医療機関に受診等させて頂いている。	基本的に本人、家族の希望を尊重して、これまでの医療機関としているが、話し合いで協力医療機関になっている。往診は内科月2回、皮膚科月1回、歯科週1回である、眼科や耳鼻科は職員が通院支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護師に訪問して頂き、状態を診て頂いたり、電話等で、緊急時の対応の指示を頂いたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、定期的に、電話等で、状況報告を聞いたり、早期退院出来る様に、病院関係者と打合せをしたりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、御本人様・御家族様には、重度化、終末期の対応についての説明・書類へのサイン等を頂き、主治医・訪問看護師等にも常時、連絡が取れる体制を作っている。	「医療連携体制・訪問看護業務・重度化対応・看取りに関する指針」を入居時に説明し、事業所で「出来る事、出来ない事」の対応可能範囲を説明して同意を得ている。主治医、訪問看護師との連携が良く、利用者のニーズに応えられる体制は作られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止・緊急時の対応等のマニュアルを作成し、研修等も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い、運営推進会議等で避難場所の確認や、地域の防災研修等にも参加している。	年2回、消防署指導で消火、避難、通報の訓練が行なわれている。防災設備のスプリンクラー、自動火災報知機、防火戸、誘導灯など設置して、廊下に避難経路の掲示や非常用おんぶヒモが用意されている。	職員だけの誘導の限界を踏まえ、日常的に災害の種類毎に具体的な対処方法を確認し、年間を通じた訓練を繰り返すことが大切である。また落下防止、倒壊防止の取組みも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一緒に生活する家族という想いをもちつつ、御利用者様への尊敬・尊重を常に意識するように心掛け、会議等でも確認している。	職員は年間研修に「人権、プライバシー」を組み入れて研修し、利用者個々の人格を尊重し、尊厳やプライドを損ねないように心がけている。利用者への職員の穏かな対応が見受けられた。書類は適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員からアプローチする場合は、御利用者様が選択出来る様な声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間・就寝時間は、出来る限り、御利用者様のペースに合わせている。日中の過ごし方も、出来る限り、御利用者様のペースで生活をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の更衣等の衣服は、御利用者様自身に選んで頂き、希望があれば、毛染め等も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週3回の調理日には、希望を聞いたり、一緒に調理をしたりしている。配膳・片付け等も、御利用者様と一緒にしている。	週4日は給食会社から調理された食事を利用している。あと週3日の食事は利用者と相談しながら買い物、調理、食事、後片付けなど、一連の作業を利用者の力を活かしながら職員と一緒にこなしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方が食べやすいように、刻んだり、ミキサーにかけて提供したり、食事量・水分量のチェックをしたりして、状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	居室や洗面台にて、口腔ケアを行なって頂き、希望がある場合や、異常時は、訪問歯科にて診て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄間隔や状態を把握する為にパターンシートに記入したり、オムツを使用せず、トイレの声かけにて、出来る限りトイレでの排泄を目指している。	「生活リズム・パターンシート」に利用者の排泄を記入し、利用者の状態を把握している。各居室にはトイレの設備があり、出来る限りトイレで排泄するように、排泄の自立を目指して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂って頂くように、声掛け、促しを行い、腹部マッサージや温めも適時行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、毎日出来るように、準備をして、御利用者様の希望や体調を考慮して入浴して頂いている。入浴剤の使用などもしている。	基本的に週三回の個浴で、利用者の体調を見ながら、足浴、清拭にするなど状態に沿った支援をしている。嫌がる利用者には無理強いないせず、タイミングを見て、上手く誘導している。入浴剤やユズ湯などの使用もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めずに、御利用者様のペースで入眠して頂いている。日中も、御利用者様のペースで、過ごし方を決めて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服説明書をファイルして置いており、常時、確認出来る様にしている。往診等で変更の指示があった場合は、申し送り等で、共有出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲で、色々な役割を持って頂き、余暇時間を作ったり、散歩に出たり、好きなテレビが観れるように声掛けしたりしている。新聞も常時、見れるように置いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物等に出る際は、声掛けをし、一緒に出る様にしている。誕生日や行事等の時は、希望を聞き、外食や、車を借りて、遠出が出来る様に計画したりしている。	ホームの側に児童公園があり、天気のよい日には毎日のように散歩したり、買い物に行く途中に神社にお参りしたり、帰りは地域の老人施設で飲み物を頂くなど 楽しい買い物となっている。誕生日の時は本人の希望の場所へ職員と出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診や散歩の際に、御利用者様自身で、日用品を購入したり、支払いをしたりして頂いている。希望があれば、買い物にも一緒に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様や、御友人の方からかかってきた電話にでて頂いたり、希望があれば、かけて頂いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に、御利用者様と一緒に製作した季節の飾りや写真を掲示したり、ソファ等でも、くつろげるようにしている。	居室前の廊下にはテーブルと椅子が置かれ利用者同士のコミュニケーションの憩い場を設けている。廊下の壁には行事写真、利用者の書道、職員と一緒に制作した季節の貼り絵の作品が飾られ、非常時の避難経路の掲示と非常用のおんぶヒモが用意されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの椅子やソファにて、御利用者様同士で、談笑して頂いたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、出来る限り、使い慣れた家具や寝具等を持ち込んで頂いたり、希望に沿って、調度品を置いたりしている。	各居室にクローゼット、ベッド、洗面台、トイレ、エアコンが設置されている。入居の際に馴染みの家具などを持ってくるように伝えている。家族写真、仏壇、タンス、テレビなど持ち込まれて、従来の生活が確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すりや居室の動線等、御利用者様が過ごしやすい環境を作るように努めている。		